



www.hakodate-otani.ac.jp



HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2017 専攻科

専攻科

<教育目的>

保育士養成課程で養われた専門性を基礎として、社会のニーズに応じた介護福祉士を目指すための知識と技術を兼ね備え、価値観を越えて生活支援できる人材育成を目的とする。

<教育目標>

1. あらゆる介護場面に汎用できる基本的な知識・技術の習得に向けた教育を実施し、尊厳の保持・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。
2. 利用者のみならず、人の心に寄り添う精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。
3. 多職種との協働や介護保険などの制度の仕組みを踏まえ、具体的に介護過程を展開できる能力を養う。
4. 自らの価値観にとらわれることなく、安全に配慮したその人らしい生活を支援できる能力を養う。

<学習成果>

- ・介護福祉士としての知識・技術・倫理観を身につけて、社会に貢献できる。
- ・根拠に基づいた介護の実践ができる。
- ・介護福祉士として、多様なニーズに対応できる。

[講義概要]

授 業

- (1) 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
- (2) 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
- (3) 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
- (4) 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
- (5) 各講義の開講は次のとおりとする。

2017年 専攻科 福祉専攻 カリキュラム (29年度入学者)

分類	領域	科目	授業区分	単位	時間	前期	後期	備考
資格取得必修科目	社会	社会の理解	講義	1	2	1		
	介護	介護の基本Ⅰ	講義	4	4	2	2	
		介護の基本Ⅱ	講義	4	4	2	2	
		リハビリテーション論	講義	2	2	2		
		介護予防論	講義	2	2		2	
		コミュニケーション技術	演習	2	4	1	1	
		生活支援技術Ⅰ	演習	2	4	2		
		生活支援技術Ⅱ	演習	2	4		2	
		生活支援技術Ⅲ	演習	1	2		1	
		生活支援技術Ⅳ	演習	2	4	2		
		生活支援技術Ⅴ	演習	2	4		2	
		レクリエーション支援法	演習	1	2	1		
		介護過程Ⅰ	演習	2	4	2		
		介護過程Ⅱ	演習	2	4		2	
		介護過程Ⅲ	演習	1	2		1	
		介護総合演習Ⅰ	演習	1	2	1		
		介護総合演習Ⅱ	演習	1	2		1	
		介護実習Ⅰ	演習	2	6	2		
		介護実習Ⅱ	演習	3	9		3	
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	講義	2	2	2		
		認知症の理解Ⅰ	講義	2	2	2		
		認知症の理解Ⅱ	講義	2	2		2	
		障害の理解	講義	2	2	2		
		こころとからだのしくみⅠ	講義	2	2	2		
		こころとからだのしくみⅡ	講義	2	2		2	
	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	2	2	2		
		医療的ケアⅡ	講義	2	2	2		
		医療的ケアⅢ	演習	1	2		2	

選択科目

科目	授業区分	単位	時間	前期	後期	備考
総合学習	講義	2	2		2	

自由選択

科目	授業区分	単位	時間	前期	後期	備考
ウィンタースポーツ	演習	1	集中		1	

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
社会の理解	1	1	前期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、介護福祉士が知識として持っておくべき、人の生活の状況や社会の状況を理解する。その上で、介護サービスに関連する各種の法制度について具体的に理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション、人間の理解		9	
2	生活と社会福祉		10	
3	社会保障制度		11	
4	介護保険制度①		12	
5	介護保険制度②		13	
6	障害者自立支援制度		14	
7	生活保護制度		15	
8	権利擁護・保健医療の諸施策・諸制度			
教科書・参考文献	新・介護福祉士養成講座「2 社会と制度の理解」(中央法規)			
成績評価の方法及び基準	①ワークシートへの記入状況(40%)と②筆記試験(60%)を総合して評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介護の基本 I	4	1	通年	渡谷 能孝
授業のねらいと 到達目標	<p>本講義では、介護を必要とする人の生活を支援する専門職として、基本的な考え方や姿勢を学習します。</p> <p>介護を必要とする人はどのような人で、自立に向けた介護とは何かを「生活」の視点から学び、専門職として介護福祉士に求められる様々な役割について理解することを目標とします。</p>			
授業の方法	教科書スライドを用いた講義形式ではあるが、個人、グループの演習を通して理解を深める。			
事前・事後 学習	教科書を読んでおくことと、新聞等で介護に関するニュースに目を向けること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	ガイダンス	16	中間まとめⅡ	
2	介護の成り立ち 生活の考え	17	その人らしさの理解Ⅰ 介護を必要とする人の住環境Ⅰ	
3	介護の概念・定義 生活の理解	18	その人らしさの理解Ⅱ 介護を必要とする人の住環境Ⅱ	
4	介護の専門性	19	生活のニーズⅠ 介護を必要とする人の住環境Ⅲ	
5	利用者に合わせた生活支援Ⅰ	20	生活のニーズⅡ	
6	利用者に合わせた生活支援Ⅱ	21	生活障害の理解Ⅰ	
7	自立と自律	22	生活障害の理解Ⅱ	
8	介護サービスの在り方	23	生活環境の理解Ⅰ	
9	介護を必要とする人の理解Ⅰ	24	生活環境の理解Ⅱ	
10	介護を必要とする人の理解Ⅱ	25	さまざまな生活支援とその意義Ⅰ	
11	私たちの生活の理解	26	さまざまな生活支援とその意義Ⅱ	
12	高齢者の生活の理解	27	生活支援者としての介護	
13	障害者の生活の理解	28	尊厳を支える介護	
14	介護とは（小テスト）	29	介護場面の事例検討Ⅰ	
15	中間まとめⅠ	30	介護場面の事例検討Ⅱ	
教科書・参考文献	教科書 介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ と 第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規			
成績評価の方法 及び基準	授業内小テスト 30% 筆記試験 70%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介護の基本 II	4	1	通年	長谷山 哲平
授業のねらいと到達目標	介護の基本的な考えや姿勢、介護の倫理について理解し、介護福祉士が果たす専門職としての社会的役割を理解する。			
授業の方法	教科書に基づく講義を基本として、教材（主にプリント）や演習などで理解を深めます。			
事前・事後学習	事前にテキストを最低一読すること。関連する文献や配布資料についても一読すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	16	中間まとめ I	
2	介護福祉士とは	17	中間まとめ II	
3	介護福祉士を取り巻く状況 I	18	介護における他職種連携 I	
4	介護福祉士を取り巻く状況 II	19	介護における他職種連携 II	
5	社会福祉士及び介護福祉士法	20	介護における地域支援事業 I	
6	介護福祉士の倫理	21	介護における地域支援事業 II	
7	介護サービスの歴史的背景	22	介護における安全の確保 I（事故防止）	
8	介護サービスの種類と提供の場	23	介護における安全の確保 II（安全対策）	
9	ケアマネジメントの意味と特性	24	介護におけるリスクマネジメント I	
10	介護サービスの特性 I（介護保険制度の目的）	25	介護におけるリスクマネジメント II	
11	介護サービスの特性 II（介護保険制度の機能と役割）	26	生活の場での感染管理	
12	介護サービスの特性 III（施設サービス）	27	介護に関わる人の健康管理	
13	介護サービスの特性 IV（居宅サービス）	28	安心して働ける環境づくり I	
14	介護サービスの特性 V（地域密着型サービス） ※小テスト（1回目）	29	安心して働ける環境づくり II ※小テスト（2回目）	
15	介護サービスの特性 VI（その他のサービス）	30	介護福祉士として	
教科書・参考文献	新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II 第 2 版			
成績評価の方法及び基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テスト(60%) 授業内テスト 2 回(30 点×2)の受験を必須とする。 ・提出されたレポート等の課題評価 (40%)。 			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
リハビリテーション論	1	2	前期	福井 瑞恵
授業のねらいと到達目標	リハビリに対するイメージを深め、介護福祉士としてのリハビリへの関わりを理解する。			
授業の方法	レジュメを用い講義と実技を組み合わせながらおこなう。			
事前・事後学習	レジュメを確認しながら講義ごとに1時間程度の復習を要する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	リハビリテーションの歴史・理念	9	各種障害とリハビリ (6)	
2	現代社会のリハビリテーション	10	障害老人・認知症老人の日常生活自立度	
3	リハビリテーションの展開過程と実践	11	他職種とリハビリテーション	
4	各種障害とリハビリ (1)	12	生活リハビリテーション	
5	各種障害とリハビリ (2)	13	当施設でのリハビリに対する取り組み	
6	各種障害とリハビリ (3)	14	講義のまとめ (1)	
7	各種障害とリハビリ (4)	15	講義のまとめ (2)	
8	各種障害とリハビリ (5)			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	試験の60点以上を単位取得の条件とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介護予防論	2	1	後期	眞嶋 史恵
授業のねらいと到達目標	本講義では、高齢者ができる限り要介護状態にならないで日常生活を営むことができ居宅内における行動範囲の拡大から社会参加の促進という支援方法が習得できることを目的とする。			
授業の方法	教科書と講義レジュメを使用し、講義・演習形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。定期試験・追試試験及び再試験については、学生便覧に沿って実施する。			
事前・事後学習	教科書や講義レジュメを熟読し授業に参加すること。また授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション／介護を必要とする人の理解	9	認知症予防プログラム (アロマペンダント)	
2	介護予防の目的	10	認知症予防プログラム (アロマペンダント)	
3	介護予防と介護保険	11	転倒予防プログラム (函館山ハイキング)	
4	保険給付の種類と内容 (介護給付と予防給付) ①	12	転倒予防プログラム (函館山ハイキング)	
5	保険給付の種類と内容 (介護給付と予防給付) ②	13	低栄養予防・口腔機能向上プログラム	
6	保険給付の種類と内容 (介護給付と予防給付) ③	14	閉じこもり予防・失禁予防プログラム	
7	認知症の現状と課題Ⅰ (中間テスト)	15	生活支援技術 (介護予防) まとめ	
8	認知症の現状と課題Ⅱ (解答・解説)			
教科書・参考文献	毎時間、講義レジュメを配布し活用する。			
成績評価の方法及び基準	①提出されたレポート等の課題評価 (40%) ②授業内テスト (60%)・・・中間テスト及び定期試験の受験を必須とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
コミュニケーション技術	2	1	通年	外崎 紅馬
授業のねらいと到達目標	コミュニケーションの基本を理解したうえで、多様な特性に応じたコミュニケーションの方法と技術を学ぶ。利用者や家族との援助的関係や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、他職種との連携に活用されるコミュニケーション方法についても学習し、専門職として適切な支援を行える能力を修得する。			
授業の方法	講義と演習を交えながら進める。			
事前・事後学習	学習によって得られた理解を日常生活の様々な場面で具体的な行動として実践し、洞察する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	介護におけるコミュニケーションとは	16	コミュニケーション障害の理解 1	
2	介護におけるコミュニケーションの役割	17	コミュニケーション障害の理解 1	
3	介護における生活支援とコミュニケーション	18	コミュニケーション障害のある利用者への対応 1	
4	話を聴く技法 1	19	コミュニケーション障害のある利用者への対応 2	
5	話を聴く技法 2	20	コミュニケーション障害のある利用者への対応 3	
6	利用者の感情表現を察する技法 1	21	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 1	
7	利用者の感情表現を察する技法 2	22	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 2	
8	利用者の納得と同意を得る方法 1	23	チームのコミュニケーション 1	
9	利用者の納得と同意を得る方法 2	24	チームのコミュニケーション 2	
10	質問の技法 1	25	記録 1	
11	質問の技法 2	26	記録 2	
12	相談・助言・指導の技法	27	報告・連絡・相談 1	
13	利用者の意欲を引き出す技法	28	報告・連絡・相談 2	
14	利用者と家族の意向を調整する技法	29	会議 1	
15	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション	30	会議 2	
教科書・参考文献	新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術（第3版） 中央法規			
成績評価の方法及び基準	試験（60%）と課題（40%）で成績を評価し総合の60%以上を合格とする。			

科目名		単 位	年次	開講期	担当教員氏名
生活支援技術Ⅰ		2	1	前期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	本講義では、その人らしい生活支援ができるようが送れるよう、介護の知識、技術、姿勢を総括的に学習します。 介護福祉士にとって必要な生活支援技術や実践的技術を習得し、要介護者の自立・自律を尊重した適切な介護技術を用いて日常生活支援ができることをねらいとします。				
授業の方法	教科書とスライド、映像等による講義形式と実技演習				
事前・事後学習	教科書による予習 実技シミュレーション				
履修条件					
授 業 計 画					
1	オリエンテーション		9	自立に向けた移乗の介護	
2	生活支援とは		10	自立に向けた移乗の介護	
3	介護におけるアセスメント		11	自立に向けた身じたくの介護	
4	介護実践における基本Ⅰ		12	食事の介護	
5	介護実践における基本Ⅱ		13	排泄の介護	
6	ボディーメカニクスの活用		14	入浴の介護	
7	移動の介護Ⅰ		15	まとめ	
8	移動の介護Ⅱ				
教科書	教科書 新・介護福祉士養成講座 第7巻 第3版 生活支援技術Ⅱ 中央法規 参考書 随時紹介する。				
成績評価の方法及び基準	筆記試験 50% 実技試験 50%				

科 目 名		単 位	年次	開講期	担当教員氏名
生活支援技術Ⅱ		2	1	後期	神門 経之
授業のねらいと到達目標	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことのできる適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識を習得する。				
授業の方法	教科書を用いて、講義と実技演習を主体とした内容で行い、授業内確認ミニテストを実施				
事前・事後学習	演習内容について、教科書を用いて事前学習が必要。確認ミニテストについては、各授業項目に関する復習が必要となる。				
履修条件					
授 業 計 画					
1	オリエンテーション・援助の前に自己覚知		9	入浴の介護①・一般入浴	
2	アセスメント・機能と情緒・自分の動き		10	入浴の介護②・特殊入浴	
3	移動の介護①・ベッド上での移動		11	排泄の介護①・排泄動作とメカニズム	
4	移動の介護②・立位・歩行		12	排泄の介護②・排泄介助	
5	移動の介護③・移乗・ストレッチャー移乗		13	睡眠の介護	
6	身支度の介護・整容・着脱		14	終末期の介護①	
7	食事の介護①・接触・嚥下		15	終末期の介護②・振り返り	
8	食事の介護②・食事の介助・口腔ケア				
教科書・参考文献	中央法規出版 生活支援技術Ⅱ・Ⅲ				
成績評価の方法及び基準	授業内ミニテスト(100%) 各項目にて実施し、60%以上で合格とする。				

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
生活援助技術Ⅲ（在宅）	1	1	後期	眞嶋 史恵
授業のねらいと到達目標	本講義では、加齢による老化や病気、障害があっても、住み慣れた環境やなじみの関係のなかで生活し続けたいと願う利用者や家族介護者を支えるために必要な知識が習得できることを目的とする。			
授業の方法	教科書と講義レジュメを使用し、講義・演習形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。定期試験・追試験及び再試験については、学生便覧に沿って実施する。			
事前・事後学習	教科書や講義レジュメを熟読し授業に参加すること。また授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション／福祉理念とサービスの意義	9	介護事例検討Ⅰ	
2	サービス提供の基本視点	10	介護事例検討Ⅱ	
3	自立に向けた在宅生活環境	11	地域における在宅サービスⅠ	
4	在宅生活支援における基礎知識Ⅰ	12	地域における在宅サービスⅡ	
5	在宅生活支援における基礎知識Ⅱ	13	介護スタッフの基本マナーⅠ	
6	在宅サービスの果たす役割	14	介護スタッフの基本マナーⅡ	
7	フォーマル・インフォーマルサービス（中間テスト）	15	生活支援技術（在宅介護） まとめ	
8	レスパイト・エンパワメント（解答・解説）			
教科書・参考文献	毎時間、講義レジュメを配布し活用する。			
成績評価の方法及び基準	①提出されたレポート等の課題評価（40%） ②授業内テスト（60%）・・・中間テスト及び定期試験の受験を必須とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
生活援助技術Ⅳ（経済・調理）	2	1	前期	鈴木 緑・和田 徳子
授業のねらいと到達目標	介護福祉士の活動する場面は施設介護と在宅介護の場所がある。在宅生活を支える援助は日常生活の援助となる。この科目ではその点に重点を置き、家庭経済と食事・食物を主とする。生活支援技術の演習科目であるので高齢者の食事作成の実習も行う。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、演習形式で行う			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要また終了後は事後ノートの整理を行う			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	高齢者の食事献立	
2	家庭生活の理解	10	高齢者の食事演習①	
3	家庭と経済	11	高齢者の食事演習②	
4	消費生活と法令	12	介護食の作成①	
5	高齢者の収入と支出	13	介護食の作成②	
6	食生活の基本と動向	14	高齢者の疾患と食事療法	
7	栄養素の基礎	15	全体を通してのまとめ	
8	高齢者の栄養・特殊食品			
教科書・参考文献	生活支援技術Ⅰ（養成講座6） 中央法規出版			
成績評価の方法及び基準	筆記試験を行い、60点以上を合格とする			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
生活援助技術Ⅴ（被服）	2	1	後期	森 雅美
授業のねらいと到達目標	被服は、私たちが健康的、社会的、文化的な生活を営む上で重要な役割を果たしている。介護の現場において、対象者の方の生きがいにもつながる豊かな衣生活を提唱し、衣生活の様々な問題点に柔軟に対処できるような生活支援能力の習得をめざす。そのためには、まず自分自身の衣生活のQOLを向上させ、さまざまな現場で活かしていく応用力を育む。			
授業の方法	教科書を用いての講義形式と、被服実習とを合わせて行う。			
事前・事後学習	作品製作において、完成期限に間に合うように、講義時間外に自己調整すること。また、講義で学んだことを、自宅で実践すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・被服の素材・織物組織の製作Ⅰ	9	被服の管理Ⅱ 洗濯実習	
2	被服の機能、織物組織の製作Ⅱ・Ⅲ	10	被服の管理Ⅲ アイロン実習	
3	自立に向けた家事の介護、基礎縫い作品製作A	11	自立に向けた住環境の整備Ⅰ 作品製作C-Ⅰ	
4	繊維の分類・特徴、繊維の燃焼実験	12	自立に向けた住環境の整備Ⅱ 作品製作C-Ⅱ	
5	被服の汚れと皮膚障害、作品製作B-Ⅰ	13	自立に向けた住環境の整備Ⅲ 作品製作C-Ⅲ	
6	寝具の快適性と管理、作品製作B-Ⅱ	14	作品製作Dと被服のまとめ	
7	衣生活と生活支援、作品製作B-Ⅲ	15	色のもたらず効果・生活への活かし方	
8	被服の管理Ⅰ、作品製作B-Ⅳ			
教科書・参考文献	「新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ」中央法規 参考文献：ハッピーライフシリーズ「ソーイングの基本」西東社			
成績評価の方法及び基準	提出物（60%） レポート提出（40%）			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
レクリエーション支援法	1	1	前期	水谷 眞貴子
授業のねらいと到達目標	レクリエーション活動の目的は「よりよく生きる＝生活の快」の実現です。意義を理解し、活動の実際を体験して、レクリエーションが持つ楽しさ・優しさ・安心感・力強さを自らが実感して、被支援者への働きかけの原動力となり、レク支援者としての援助能力を習得することを目指します。			
授業の方法	実技・演習を中心とし、理論部分は資料を基に講義形式で行う。（体育実技に準じた服装）			
事前・事後学習	学習したことを、日常生活の中で積極的に実践していくことが必要です。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション. アイスブレーキング	9	介護現場でのレクリエーション②	
2	レクリエーションの意義	10	シナプソロジーとレクリエーション	
3	ホスピタリティ	11	対象に合わせたアレンジ法	
4	レクリエーション支援の考え方	12	グループワークトレーニング	
5	アイスブレーキングの意義と基本技術	13	レクリエーション事業計画	
6	アイスブレーキングのプログラミング	14	支援の実際と評価	
7	福祉レクリエーション	15	レクリエーションスポーツ	
8	介護現場でのレクリエーション①			
教科書・参考文献	資料配布			
成績評価の方法及び基準	毎時間終了時に課題提出（50%）		前期終了時にレポート提出（50%）	

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介 護 過 程 I	2	1	前期	眞嶋 史恵
授業のねらいと到達目標	本講義では、介護過程の基礎的知識と一連のプロセスを理解する。紙上事例を用いた演習を通し、特にアセスメントと介護計画の立案に重点をおいて、その技術を習得する。			
授業の方法	教科書の内容に沿った講義と、個人またはグループで取り組む演習を組み合わせで行う。講義と演習への取り組みが単位認定の必須条件となる。試験については、学生便覧に沿って実施する。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の講義内で完了させることができなかつた演習課題は、講義の事前・事後に各自で計画的に取り組むこと。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	介護計画の立案(具体的支援内容・方法の決定)	
2	介護過程の基礎①	10	介護計画の立案の実際(事例演習)	
3	介護過程の基礎②	11	実施と評価	
4	アセスメント(情報の収集)	12	介護過程とチームアプローチ	
5	アセスメント(情報の解釈・関連づけ・統合化)	13	介護過程の実践的展開(総合事例演習)①	
6	アセスメント(課題の明確化)	14	介護過程の実践的展開(総合事例演習)②	
7	アセスメントの実際(事例演習)	15	介護過程の実践的展開(総合事例演習)③	
8	介護計画の立案(目標の設定)			
教科書・参考文献	介護福祉士実務者研修テキスト第2巻・第3巻(中央法規出版)、講義レジュメを配布し活用する。			
成績評価の方法及び基準	①レポート課題(介護過程シート)・・・50% ②グループ討議・発表・・・・・・・・・・50%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介 護 過 程 II	2	1	後期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	本講義では、介護過程 I の学習を踏まえ、演習を通じて介護過程の理解を深め、実践に対応できる総合的能力を身につけることをねらいとします。 介護実習における介護計画作成に伴う実践能力はもちろんのこと、尊厳の保持や自立、生きがいや役割を考えた介護過程のアセスメントの実践を目標とします。			
授業の方法	スライド等による講義と事例検討などのグループワーク			
事前・事後学習	介護過程 I の講義を復習しておくこと。 実習におけるアセスメントの実践。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・介護過程 I の復習 I	9	介護過程事例の検討VI	
2	介護過程 I の復習 II	10	介護過程事例の検討VII	
3	介護過程 I の復習 III	11	介護過程の記入方法 I	
4	介護過程事例の検討 I	12	介護過程の記入方法 II	
5	介護過程事例の検討 II	13	介護過程の記入方法 III	
6	介護過程事例の検討 III	14	介護過程作成のまとめ I	
7	介護過程事例の検討 IV	15	介護過程作成のまとめ II	
8	介護過程事例の検討 V			
教科書・参考文献	教科書 介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 中央法規			
成績評価の方法及び基準	提出物(介護過程シート)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介 護 過 程 Ⅲ	1	1	後期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	<p>介護実習Ⅱでのアセスメントを基にケース利用者の介護計画を作成することで、根拠ある介護実践の意味を再確認する。また、自身のケース発表を通し、「そのひとらしい生活」を理解することをねらいとします。</p> <p>ケース発表を通して、自らの介護福祉観を再認識する。</p>			
授業の方法	自己の計画をまとめ、各々での資料を作成し発表する。			
事前・事後学習	介護過程資料をよく読み、各々のケースを再確認する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・介護計画の作成Ⅰ	9	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅶ	
2	介護計画の作成Ⅱ	10	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅷ	
3	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅰ	11	ケース発表Ⅰ	
4	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅱ	12	ケース発表Ⅱ	
5	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅲ	13	ケース発表Ⅲ	
6	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅳ	14	ケース発表Ⅳ	
7	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅴ	15	専門職として	
8	ケース資料のまとめと発表資料の作成Ⅵ			
教科書・参考文献	教科書 介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 中央法規			
成績評価の方法及び基準	レジュメ 30% 発表内容等 70%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介護総合演習Ⅰ	1	1	前期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	<p>本講義は介護実習Ⅰの教育効果を上げることが目的であり、介護実習の場にふさわしい実習生像を自主的に導き出せるような授業を展開することをねらいとします。</p> <p>生活支援に携わる実習生としての基礎的な心構え、記録、総合的な知識や技術に関して、介護実習と連動して身につけることを目標とします。</p>			
授業の方法	教科書や板書等を用いた講義形式			
事前・事後学習	教科書等を読んだの予習。 ボランティア体験			
履修条件				
授 業 計 画				
1	ガイダンス・実習とは何か	9	記録の書き方Ⅱ	
2	介護実習全体の意義・目的	10	記録の書き方Ⅲ	
3	介護実習と多科目との連携	11	実習事前指導	
4	実習施設についての理解Ⅰ	12	実習中間指導Ⅰ	
5	実習施設についての理解Ⅱ	13	実習中間指導Ⅱ	
6	実習施設についての理解Ⅲ	14	実習事後指導	
7	実習施設についての理解Ⅳ	15	実習の評価と反省	
8	記録の書き方Ⅰ			
教科書・参考文献	教科書 介護総合演習・介護実習 中央法規			
成績評価の方法及び基準	レポート50% 実習記録 50%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介護総合演習Ⅱ	1	1	後期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	<p>本講義は介護実習Ⅰでの反省を踏まえ、より効果的な介護実習Ⅱの実施に向けた取り組みができるようにすることが目的であり、介護実習の場にふさわしい実習生像を自主的に導き出せるようになることをねらいとします。</p>			
授業の方法	教科書やスライド等を用いた講義と演習の形式			
事前・事後学習	提出課題への取り組みを計画的に行うこと。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	ガイダンス	9	記録②	
2	介護実習Ⅰの振り返り①	10	実習中間指導①	
3	介護実習Ⅰの振り返り②	11	実習中間指導②	
4	介護実習Ⅱの意義	12	実習事後指導	
5	介護実習Ⅱの目的	13	実習報告	
6	実習目標①	14	実習評価と反省	
7	実習目標②	15	まとめ	
8	記録①			
教科書・参考文献	教科書 介護総合演習・介護実習 中央法規			
成績評価の方法及び基準	レポート50% 実習記録 50%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介 護 実 習 I	2	1	前期	学科担当
授業のねらいと到達目標	利用者の方が、その人らしさを維持しながら生活を送ることについて、介護実習を通じて理解を深め、施設の機能や役割、基本的ケアを学びます。また、利用者の方とのコミュニケーションや生活支援の基礎的な技術習得を目標とします。			
授業の方法	実習			
事前・事後学習	教科書等で実習施設について理解を深める。 実習記録を再確認する。			
履修条件				
授 業 計 画				
介護老人福祉施設・介護老人保健施設実習 デイサービス・デイケア実習				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の理解 ・ 利用者の日常生活の理解 ・ コミュニケーション能力を高める ・ 日常の介護支援を学ぶ ・ 介護の職業倫理を学ぶ ・ 介護と多職種の連携を学ぶ 				
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	実習評価 60% ・ 実習日誌 40%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
介 護 実 習 II	3	1	後期	学科担当
授業のねらいと到達目標	利用者に応じた生活支援の実践をする。 介護過程で学習した思考のプロセスを展開することで、受け持ち利用者のアセスメントから尊厳保持や自立支援に向けた介護計画を学びます。 適切な生活支援能力の習得と、「その人らしい生活」を維持することへの理解を目標とします。			
授業の方法	実習			
事前・事後学習	教科書等をよく読んでおく。 実習記録を確認する。			
履修条件				
授 業 計 画				
介護老人福祉施設・介護老人保健施設実習				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の理解 ・ 利用者の日常生活の理解 ・ 利用者や家族とのコミュニケーションを実践し、人間形成を行う ・ 多職種や関係機関との連携を学ぶ ・ 介護の奥深さ、姿勢、職業倫理を学ぶ ・ 生活支援の個別性について学ぶ ・ 介護過程の思考プロセスから、利用者個人の介護計画を立案する 				
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	実習評価 60% ・ 実習日誌 40%			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
発達と老化の理解	2	1	前期	山田 陽子
授業のねらいと到達目標	<p>高齢者は身体の老化と疾病を合わせ持ちながら生活している。それらの病態と生理を知り、科学的な理論を持って、介護を行なうことは必須のことである。</p> <p>老化による身体のしくみを知り、日常生活動作の病態生理を学ぶ。また高齢者に多い病気の基礎知識を学ぶ。それらが介護福祉士としての援助の基礎となる。</p>			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要また終了後は事後ノートの整理を行う			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	高齢者の生活の変化	
2	人間の発達段階と身体の発達	10	老化に伴う身体の変化(循環系)	
3	発達と個人差の理解	11	老化に伴う身体の変化(呼吸系・消化系)	
4	老化とは何か、老年期とは何か	12	高齢者の病気の表れ方	
5	老化とこころの問題	13	高齢者に多い症状	
6	老化に伴う日常生活の変化	14	高齢者に多い病気と留意点	
7	老化に伴うからだの変化	15	全体を通してのまとめ	
8	老化に伴う知的変化			
教科書・参考文献	<p>医学一般(別巻1) メジカルフレンド社 発達と老化の理解(9) メジカルフレンド社</p>			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
認知症の理解 I	2	1	前期	眞嶋 史恵
授業のねらいと到達目標	本講義では、認知症の原因や症状、また日常生活への影響を知り、介護方法を学ぶと共に早期発見・予防への取り組みを講義や演習を通して理解することを目的とする。			
授業の方法	教科書と講義レジュメを使用し、講義・演習形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。定期試験・追試験及び再試験については、学生便覧に沿って実施する。			
事前・事後学習	教科書や講義レジュメを熟読し授業に参加すること。また授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション/加齢に伴う変化 I	9	介護事例検討 II (BPSDの理解)	
2	加齢に伴う変化 II	10	介護事例検討 III (BPSDの理解)	
3	認知症ケアの理念と視点	11	介護事例検討 IV (小テスト②・解答・解説)	
4	認知症の定義	12	介護福祉サービスの種類と利用方法 I	
5	認知症の現状と課題(小テスト①・解答・解説)	13	介護福祉サービスの種類と利用方法 II	
6	医学的側面からみた認知症の基礎	14	家族や地域の力を活かす	
7	中核症状とBPSDの違い	15	認知症の理解 まとめ	
8	介護事例検討 I (BPSDの理解)			
教科書・参考文献	新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解(中央法規出版)、講義レジュメを配布し活用する。			
成績評価の方法及び基準	①提出されたレポート等の課題評価(40%) ②授業内テスト(60%)・・・小テスト及び定期試験の受験を必須とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
認知症の理解Ⅱ	2	1	後期	波並 孝
授業のねらいと到達目標	本講義では、認知症についての理解を深め、認知症高齢者の心の理解を最大のテーマとし、その人らしさを支援することが可能となることを目的とする。			
授業の方法	教科書、オリジナル資料、その他資料を用い、講義及びグループワーク形式で行う。テストの欠席は認めず、代替措置も講じない。			
事前・事後学習	教科書について予習と講義終了後の復習が必要			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	認知症の人に対する介護①	
2	認知症の人を取り巻く状況	10	認知症の人に対する介護②	
3	認知症の人の医学・行動・心理的理解①	11	認知症の人に対する環境を考える	
4	認知症の人の医学・行動・心理的理解②	12	生活の質の保障とリスクマネジメント	
5	認知症の人の体験の理解	13	地域の力を活かす ～連携と協働～	
6	認知症の人の生活のアセスメントと支援	14	家族の理解と支援	
7	認知症の人の生活理解	15	新しい認知症介護の理念の構築	
8	認知症の人とのコミュニケーション			
教科書・参考文献	新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解 第2版			
成績評価の方法及び基準	筆記試験			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
障害の理解	2	1	前期	細谷 一博
授業のねらいと到達目標	本講義では、障害にかかわる概念や基本理念を理解する。その上で、各種障害を医学・心理的側面から理解し、それを踏まえた生活支援の実際を理解する。また、家族支援や他職種との連携も理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、関連資料を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション、障害の概念	9	発達障害者の生活と支援	
2	障害者福祉の基本理念	10	難病者の生活と支援	
3	視覚障害者の生活と支援	11	内部障害者の生活と支援①	
4	聴覚・言語障害者の生活と支援	12	内部障害者の生活と支援②・障害者介護の基本	
5	肢体不自由者の生活と支援	13	家族への支援・連携と協働	
6	知的障害者の生活と支援	14	講義内容の振り返り①	
7	精神障害者の生活と支援	15	講義内容の振り返り②	
8	高次脳機能障害者の生活と支援			
教科書・参考文献	新・介護福祉士養成講座「13 障害の理解」「8 生活支援技術Ⅲ」（中央法規）			
成績評価の方法及び基準	筆記試験(80%)とレポート内容(20%)を総合して評価する。試験は2回(筆記試験、筆記再試験)までで各60点以上にて単位認定を原則とし、再々試験は実施いたしません。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こころとからだのしくみⅠ	2	1	前期	中村 ひとみ
授業のねらいと到達目標	高齢者は身体の老化と疾病を合わせ持ちながら生活をしている。それらの病態と生理を知り、科学的な理論を持って、介護を行うことは必須のことである。からだとこころのしくみを知り、日常生活動作と結びつけて学ぶことが介護技術の理論的根拠となる。それらの障害を持った高齢者の介護の要点と生活上の援助を具体的に習得する。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う。			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要また終了後は事後ノートの整理を行う。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	活動・移動に関連したしくみ（Ⅰ）	
2	ヒトの一生のリズムと健康	10	活動・移動に関連したしくみ（Ⅱ）	
3	身体の成り立ちを学び全体像を理解する	11	食事に関連したしくみ（Ⅰ）	
4	生命活動を調整するしくみ	12	食事に関連したしくみ（Ⅱ）	
5	外界の変化に対応するしくみ	13	入浴・清潔保持に関連したしくみ（Ⅰ）	
6	脳の働きとこころのつながりについて	14	入浴・清潔保持に関連したしくみ（Ⅱ）	
7	行動の動機づけと社会への適応について	15	全体を通してのまとめ	
8	身じたくに関連したしくみ			
教科書・参考文献	こころとからだのしくみ 12 メヂカルフレンド社 医学一般 別巻1 メヂカルフレンド社			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こころとからだのしくみⅡ	2	1	後期	中村 ひとみ
授業のねらいと到達目標	身体の構造や機能、加齢における変化や障害・疾病について理解することにより介護における理論的根拠を確かなものとする。そのことは、利用者の支援において尊厳と自立性を守るための視点を培うことにつながる。前期のこころとからだのしくみⅠで学んだことを基に積み重ね、学習を深めていく。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う。			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要また終了後は事後ノートの整理を行う。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	高齢者と感染症	
2	高齢者特有のからだの生理機能（Ⅰ）	10	高齢者に多い疾病と症状	
3	高齢者特有のからだの生理機能（Ⅱ）	11	救急法	
4	排泄に関連したしくみ（Ⅰ）	12	死にゆく人のしくみ（Ⅰ）	
5	排泄に関連したしくみ（Ⅱ）	13	死にゆく人のしくみ（Ⅱ）	
6	睡眠に関連したしくみ（Ⅰ）	14	地域と医療との連携	
7	睡眠に関連したしくみ（Ⅱ）	15	全体を通してのまとめ	
8	感染症一般について			
教科書・参考文献	こころとからだのしくみ 12 メヂカルフレンド社 医学一般 別巻1 メヂカルフレンド社			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
医療的ケア I (喀痰吸引)	2	1	前期	澤田 信子
授業のねらいと到達目標	医療的ケアは介護福祉士の業務として位置づけられた。医療的ケア I では喀痰吸引を安全・適切に実施するために必要な知識を習得する。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う。			
事前・事後学習	教科書の事前予習及び講義終了後は事後ノートの整理を行う。 DVDを視聴しイメージを捉える。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	10	喀痰吸引が必要な状態と病気	
2	医療の倫理と介護の倫理	11	吸引に必要な器具・機材	
3	医療制度とチーム医療	12	人工呼吸器と気管カニューレ	
4	安全と医療事故	13	事故と記録・報告	
5	感染予防と清潔保持	14	喀痰吸引の実施の手順と留意点①	
6	呼吸の仕組みと働き	15	喀痰吸引の実施の手順と留意点②	
7	呼吸状態の観察	16	喀痰吸引の実施の手順と留意点③	
8	喀痰の排出と特徴	17	まとめ	
9	喀痰吸引の定義と方法			
教科書・参考文献	医療的ケア メジカルフレンド社			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行う。60点以上を合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
医療的ケア II (経管栄養)	2	1	前期	中村 ひとみ
授業のねらいと到達目標	医療的ケアは介護福祉士の業務として位置づけられた。医療的ケア II では経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識を習得する。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う。			
事前・事後学習	教科書の事前予習及び講義終了後は事後ノートの整理を行う。 DVDを視聴しイメージを捉える。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	10	経管栄養のしくみと種類	
2	医療的ケアを学ぶ意義	11	対象者に対する栄養と吸収	
3	健康状態の把握と観察	12	経管栄養に用いる器具と清潔保持	
4	バイタルサイン	13	注入内容に関する知識	
5	経管栄養と医療行為	14	経管栄養の実施の手順と留意点①	
6	消化器系のしくみと働き	15	経管栄養の実施の手順と留意点②	
7	咀嚼と嚥下のしくみ	16	経管栄養の実施の手順と留意点③	
8	消化器の主な症状と病気	17	全体を通してのまとめ	
9	経管栄養が必要な状態			
教科書・参考文献	医療的ケア メジカルフレンド社			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行う。60点以上を合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
医療的ケアⅢ（演習）	1	1	後期	山田 陽子
授業のねらいと到達目標	医療的ケアは介護福祉士の業務として位置づけられた。医療的ケア演習では喀痰吸引、及び経管栄養を安全・適切に実施するために必要な技術を習得する。			
授業の方法	演習シミュレーター（モデル）を用いて実施する。評価項目と評価の視点に基づき学生1名が教員からの評価を受ける。			
事前・事後学習	教科書とDVDの資料を使い、自己学習行う。			
履修条件	医療的ケアⅠ・Ⅱの筆記試験の合格者のみ演習へ進むことができる。			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション、演習方法	9	鼻腔内吸引（通常手順）評価②	
2	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 評価①	10	気管カニューレ内部吸引（通常手順）評価③	
3	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 評価①	11	気管カニューレ内部吸引（通常手順）評価③	
4	経鼻経管栄養 評価②	12	救急時の対応・救急蘇生法	
5	経鼻経管栄養 評価②	13	特定行為業務の関係書類とヒヤリハット	
6	口腔内（通常手順）評価①	14	現場における特定行為業務の見学	
7	口腔内（通常手順）評価①	15	まとめ	
8	鼻腔内吸引（通常手順）評価②			
教科書・参考文献	医療的ケア メジカルフレンド社			
成績評価の方法及び基準	教員1名につき1名の学生を評価表に従い実施し、5つの評価表の項目を5回実施する。各評価項目を達成により合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
総合学習	2	1	後期	学科担当
授業のねらいと到達目標	介護福祉士取得に向けた学習を行なう。介護福祉士国家試験受験対策を主として知識の再確認を行ない、合格を目標とする。			
授業の方法	問題集を用いての講義			
事前・事後学習	教室での学習や自己学習を進め、教員からの個別指導を受ける。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	全国統一模擬試験	
2	領域別の復習	10	国家試験直前対策講座	
3	領域別の復習	11	国家試験直前対策講座	
4	領域別の復習	12	国家試験直前対策講座	
5	領域別の復習	13	国家試験直前対策講座	
6	全国統一模擬試験	14	個別学習指導	
7	全国統一模擬試験	15	まとめ	
8	全国統一模擬試験			
教科書・参考文献	介護福祉士過去問題集 中央法規 全国統一模擬試験			
成績評価の方法及び基準	筆記試験			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
ウィンタースポーツ	1	2	集中	渡谷 能孝・中村 哲二
授業のねらいと到達目標	雪国の文化であるスノースポーツは人々に潤いと意欲、文化向上に果たす役割は大きいものである。その中心的なスキー・スノーボードを体験し意義の理解、技術向上を図り実践的態度を身につける目的とする。			
授業の方法	後期講義終了後、二泊三日の集中講義を行います。実施地は函館七飯スキー場。			
事前・事後学習	特に無いが、用具の準備・整備・管理及び健康管理。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	用具・服装・安全の知識と点検	9	フォールラインへの横滑（サイドスリップ）	
2	ハンディングの装着	10	木の葉落とし	
3	基本姿勢	11	斜滑降からの山回り（バックサイド）	
4	安全な転び方	12	斜滑降からの山回り（フロントサイド）	
5	方向転換	13	斜面横方向から縦方向へ（迎え角の変更）	
6	起き方	14	ノーズドロップと停止 （バックサイドからフロントサイドから）	
7	歩行、登行	15	トラベース→スネークトラベース→ ノーズドロップ停止	
8	片足スケータリング			
教科書・参考文献	SAJ スノーボード教程（財団法人全日本スキー連盟）日本スキー教程（財団法人全日本スキー連盟）			
成績評価の方法及び基準	授業内での評価 100% 60%以上で合格とする。			

